

評価者	こどもみらい部長	平井 あかね
-----	----------	--------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	青少年育成	施策の方針	青少年の育成・支援
目標とすべきまちの姿	青少年が夢や希望をもってさまざまなことに挑戦し、多くの人の支えや関わりの中で、地域を支えられるような大人に成長するための環境が整備されています。 青少年会館を拠点として定期的に講座が開催され、そのなかでさまざまな世代の交流が活発に行われています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度(2018年度)	26.6%	平成29年度(2017年度)	25.3%	平成28年度(2016年度)	24.2%
	平成27年度(2015年度)	28.6%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	2.0%	1.2%	0.3%
ちょうどよい	1.7%	48.1%	1.7%
効果不十分	3.0%	3.0%	7.8%

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.2%	0.2%	0.2%
ちょうどよい	2.3%	46.6%	1.9%
効果不十分	5.3%	1.8%	10.5%

平成29年度(2017年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	2.5%	0.9%	0.2%
ちょうどよい	2.0%	48.7%	1.1%
効果不十分	4.3%	3.6%	8.5%

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.4%	0.6%	0.4%
ちょうどよい	2.0%	43.5%	1.6%
効果不十分	3.9%	2.3%	10.6%

平成27年度(2015年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	16.2%	46.9%	6.0%	30.9%
平成29年度(2017年度)	16.5%	45.7%	6.9%	30.9%
平成28年度(2016年度)	14.6%	50.1%	6.7%	28.6%
平成27年度(2015年度)	17.2%	44.5%	5.2%	33.2%

## 2 内部評価

### (1) 平成30年度(2018年度)の目標

- ①引続き、青少年の健全育成を図るため、青少年育成団体との情報交換をしながら連携を図る。(こども-33)  
 ②困難に直面している若者に対する地域の理解を深めるための、セミナー等を開催するなど、「支援体制の充実」を図る。(こども-34)  
 ③青少年会館が自己肯定感をもてる青少年の居場所となるよう、自立困難な若者に対しての取り組み状況等の情報共有を図る。(こども-34)

### (2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

- ①青少年育成団体等が連携し、青少年を対象とした事業を実施することで、それが手本となり青少年が多くの人々の支えや関わりの中で地域を支えられるような大人に成長するための環境が整備される。(こども-33)  
 ②③困難に直面している若者や自立困難な若者を地域社会全体で支えたり、居場所を提供したりすることで当該若者が夢や希望をもってさまざまなことに挑戦できる環境が整えられる。(こども-33、34)

### (3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	平成30 年度 (2018年 度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年 度 (2018年 度)	令和元年 度 (2019年 度)	平成 30年度 (2018 年度)	令和 元年度 (2019 年度)		事業 内容	予算 規模
こども-33	育成事業	5,142	4,966	19,095	19,802	1.7	1.7	無	b	B
こども-34	青少年会館管理運営事業	36,431	34,459	48,743	55,105	1.5	1.5	無	b	B

### (4) 主な実施内容

#### 【主な実施内容】

- ①研修会(救急救命講習会)を行い青少年指導員としての資質向上に努めた。小学生を対象とした子どもキャンプを実施し、子どもたちは協力・協調することを学んだ。  
 ②困難に直面している若者や家族に対して「”ひきこもり”を考える講演会」を開催するとともに、ひきこもりマップの作成・配布をし、支援体制について周知を図った。  
 ③玉縄青少年会館のロビーを整備し、自習スペースを設け青少年の居場所づくりを行った。また、市内県立高校4校との協議により、青少年の発表の場として青少年フェスタを実施した。

#### 【実施できなかった事業とその理由等】

### (5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

#### <上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・青少年育成団体である青少年指導員が主催した子どもキャンプでは、市内小学校12校から参加し、また、ジュニアリーダーズの中高生がサポーターとして加わり、縦割りのグループ編成により、協力して夕食づくりやレクリエーションを通して多世代の交流が図れた。
- ・高校生が他校の生徒と協力して自ら企画し、日頃の活動を発表する場を提供した。
- ・成人のつどい実行委員会や青少年フェスタでは青少年の発表の場の提供ができ、青少年の居場所づくりや社会参画の推進に努めた。

### (6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ・市内小学校区に順次開設している放課後かまくらっ子を青少年の居場所とし、また高校生の社会参画やキャリア教育の推進を図る。(こども-33)  
 ・平成28年3月に改定した「鎌倉市子ども・若者育成プラン」の3つの重点目標のうち、「青少年の居場所づくり」として、玉縄青少年会館に自習スペースを設置した。今後も周知に努め居場所づくりを継続して実施していく。(こども-34)

**(7)令和元年度(2019年度)の目標**

- ①引き続き青少年の健全育成を図るため、青少年育成団体と連携し、協力した体制づくりの構築を図る。(こども-33)
- ②青少年の居場所づくりと社会参画を推進する。(こども-34)
- ③多岐多様化しているひきこもりについて関連課等と連携し、支援体制についての検討を進める。また、当事者やその家族への情報提供を行う。(こども-34)

**(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性**

- ①青少年育成団体等が連携し、青少年を対象した事業の開催によりそれが手本となり青少年が多くの人々の支えや関わりの中でさまざまなことに挑戦し、地域を支えられるような大人に成長するための環境が整備される。
- ②青少年の居場所や発表の場を提供することにより夢や希望を持って挑戦できる環境をつくる。
- ③困難に直面している若者やその家族への支援ができる地域社会や、支援体制の充実を図る。

**3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)**

整理番号	こども-33	事業名	育成事業							
指標の内容	青少年指導員の人数					単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
青少年を対象とした取り組みの指標となるため	目標値	75	75	75	75	75	75			
	実績値	65	63	56	58	62				
	達成率	86.7%	84.0%	74.7%	77.3%	82.7%				
整理番号	こども-34	事業名	青少年会館管理運営事業							
指標の内容	青少年会館利用者数					単位	人	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
青少年の参加しやすい講座の開設	目標値	52,000	52,300	52,400	52,500	52,600	52,700			
	実績値	52,845	55,041	53,715	51,496	47,113				
	達成率	101.6%	105.2%	102.5%	98.1%	89.6%				

**参考 前年度外部評価結果への対応**

<b>鎌倉市民評価委員会からの指摘</b>	
<b>課題</b>	<b>指摘への対応、コメント等</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年会館が自己肯定感をもてる青少年の居場所となるよう、自立困難な若者に対しての取組状況等の情報共有を図る。</li> <li>・情報共有を受けて、今後どのような対策が検討されたのか考える必要がある。引きこもりの当事者にインタビューしたとのことだが、今後どう施策につなげていくかが重要。</li> <li>・ひきこもりに関して、民間に委ねる部分が大きいと考えるならば、1日も早い「ひきこもり支援マップ」の完成が必要である。</li> </ul>	<p>平成28年4月設置した「ひきこもりに関する連絡会」(青少年課、生活福祉課、商工課、教育センター)を年4回開催し、民間団体等と連携し平成30年7月に「鎌倉市ひきこもり支援マップ」の作成・発行を行いました。</p> <p>ひきこもり当事者の意見を参考にし、年代や分野を問わず相談できる窓口の開設や、ホームページ等の充実に努めます。</p>
<b>提言</b>	<b>提言に対するコメント等</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかたま」を新たに開設したことは評価できるものの、HPで確認するとスペースは充実している広さであるとは言えなさうなので、今後の青少年からの需要を検証しながら学習するための場所作りを進めてほしい。</li> <li>・青少年会館の青年の利用人数及び、青年を対象にした講座、教室数の数を指標化してほしい。</li> <li>・0歳から小学生までは他の分野での取組があるが、16歳以上の未成年を対象にした施策はここだけである。青少年という幅広い年齢層を対象とするのではなく、16歳以上に絞った取組を行うのだろうか。</li> </ul>	<p>玉縄青少年会館のロビーを改修し、自習スペースの整備を行いました。今後も青少年の需要を検証しながら青少年の居場所づくりを進めていきます。</p> <p>⇒ 青少年を対象とした講座数の指標化を検討します。</p> <p>⇒ 青少年のボランティア活動など社会参画へのニーズがあるため、社会参画を推進し、参加できる機会を提供する。社会的自立に向けたキャリア教育の推進をしていきます。</p>

### 質問

・「地域の中でどのような支援ができるか」、「どうして不登校、ひきこもりになるのか」を広く市民に理解してもらう必要がある。情報共有を受けて、今後どのような対策が検討されたのか？

・NPO法人「鎌倉てらこや」、「鎌倉市青少年協会」、「鎌倉市青少年指導員連絡協議会」3団体の鎌倉青少年会館フェスティバル参加とあるが、具体的な活動および効果はどのようなものか。

・鎌倉学習センターの自習室「わかたま」の利用状況について知りたい。

・「目標とすべきまちの姿」にある「青少年会館を拠点として定期的に講座が開催され、そのなかでさまざまな世代の交流が活発に行われています。」について、「講座の開催」と「世代の交流」にはどのような「関係性」があり、実際に活発に交流されているのか？

・「指標」の「青少年指導員の人数」について、設定理由を「地域における青少年を対象とした取組の指標となるため。」としているが、人数と取組の関係性が不明である。また、目標値はどのように設定しているのか？

・「指標」の「青少年会館利用者数」について、設定理由を「青少年の利用者(利用率)数を増やすため。」としているが、利用者を把握するとなぜ利用者は増えるのか？利用が増えたとどの様な理由で「目標とすべきまちの姿」が推進されていると判断出来るのか？また、実績が減少しているのに傾向はなぜ横ばいなのか？

### 質問に対する回答

平成28年4月に設置した「ひきこもりに関する連絡会」を年4回開催し、「ひきこもり支援マップ」の作成・配布を行いました。当事者やその家族に相談窓口や支援機関の周知、啓発を行います。

各団体ブースを開設し、日頃の団体の活動内容を紹介し、地域での社会活動に参加できる機会の情報提供を行いました。

中高生の利用も多く青少年の居場所として周知できました。延べ1255人の利用がありました。

⇒ 青少年がリコーダー講座を通じて学んだことを青少年会館に併設しているデイサービス施設へ訪問し発表をしました。またお楽しみ会では大人がつくった食事や昔あそびを地域の子どもたちに提供をするなど世代交流がありました。

青少年の健全育成を目的とし任命された青少年指導員が、青少年の地域活動への参加や機会の提供を推進するために、地域ごとに配置される必要があります。

青少年の交流場所として、利用しやすい講座や居場所を提供するために利用者数を把握しています。

## 青少年の育成・支援

### 評価できるところ

- ・「青少年の居場所づくり」として、鎌倉学習センターに自習スペース「わかたま」を新たに開設した。今後も周知に努め継続して居場所を確保していくことが望まれる。
- ・研修会、講演会を開催し青少年指導員としての活動内容の向上に努めた。
- ・青少年課、生活福祉課、商工課、教育センターとでひきこもりに関する連絡会が開催され「引きこもり支援マップ」の作成、発行を行った。
- ・困難に直面している若者や家族に対して「“ひきこもり”を考える講演会」を開催するとともに、ひきこもりマップの作成・配布をし、支援体制について周知を図った。

評価の内訳				委員会の評価
取組	4	0	4	
効果	1	0	-	-

### 課題

- ・青少年の居場所づくりを進めているが定着できていない。
- ・ひきこもりマップの作成・配布をし、支援体制について周知を図った。ひきこもり支援マップはわかりやすくできている。相談先などに、ひきこもりの人や家族が容易にアクセスできるようPRを図る必要がある。
- ・「鎌倉市青少年に関する最大の課題」は何か？「青少年指導員人数」「青少年会館利用者数」ではないと考える。課題を明確にすることが最大の課題である。
- ・青少年会館が自己肯定感のもてる青少年の居場所となるよう、とあるが具体的な活動があまりよく分からない。
- ・引きこもり対策について、当人たちが青少年の枠組みを超える40代以上に到達する前に解決する必要がある。
- ・青少年指導員の成り手不足と高齢化は問題であり、新たな担い手の確保は重要な取組であると思う。
- ・玉縄青少年会館のロビーを整備し、自習スペースを設け青少年の居場所づくりを行ったとあるが、玉縄青少年会館が2020年度閉鎖予定とあるので代替の居場所が必要。
- ・目標とするまちの姿に地域を支援する青少年を育てるとあるが、そのような取組が少ない。(まち・ひと・しごと創生総合戦略における地域人材育成など)
- ・「鎌倉市ひきこもり支援マップ」を引きこもりで悩む人にどのように周知すべきか。

### 提言

- ・行政がどこまで家庭環境に関わる問題に関わるべきか難題であると思うが、作成した「引きこもり支援マップ」の活用が一刻も早く当事者および当事者家族に普及する様に努めて欲しい。また、今後「引きこもり支援マップ」がどの程度活用されたのか指標で示せるなら示して欲しい。
- ・青少年を対象とした取組の指標として「青少年指導員の人数」とあるが、青少年を対象とした講座、イベントの参加人数の方がわかりやすいのではないかと？
- ・相談者に、「鎌倉市ひきこもり支援マップ」このマップを見たか等のアンケートを実施し、今後の改善や浸透を図って頂きたい。
- ・「鎌倉市ひきこもり支援マップ」は自治体でも回覧すべき。
- ・自習スペースの利用率なども指標にすべき
- ・指標に対する実績だけをみると「効果」が出ているようには見えない。実施内容からすれば、もっと他の効果があるように推測できるので、指標を工夫すべき。

### 質問

- ・「地域の中でどのような支援ができるか」、「どうして不登校、ひきこもりになるのか」を広く市民に理解してもらう必要がある。情報共有を受けて、今後どのような対策が検討されたのか？
- ・「青少年の健全育成を図るため、青少年育成団体との情報交換をしながら連携を図る」の具体的な内容はなにか？
- ・青少年指導員の役割は「イベント開催担当」と認識しているが、イベント開催内容について報告が無いのは何故か？また指導員定数が満たされていないようだが対策は取られているのか？
- ・「青少年会館利用者数」が年々減っている様だがその理由をどの様に分析しているのか？
- ・玉縄青少年会館の閉鎖が2020年度の計画となっているが、閉鎖後の青少年会館機能はどのようにするのか。